

Person

高齢化社会の進行とともに、社会における高齢者の役割が変わっている。日本の65歳以上の人口は5月1日現在で約3257万人(確定値、人口推計より)と、全国民の約4分の1。10年後には30%に達する予定で、現役世代のみが社会を支えるには負担が大きくなり、意欲と能力のある高齢者は、社会を支える側にならなければならない。高齢者が意識改革をする必要がある。

モノづくり力再生

職業で得たスキルなどをボランティアで提供し、社会の課題解決や活性化につなげることを「プロボノ活動」という。社会の課題の一つに、現役世代の技術力低下などによる日本のモノづくり力の低下がある。状

「プロボノ活動」のすすめ

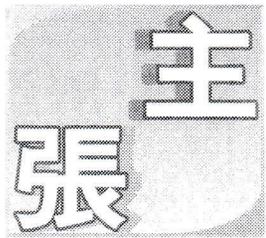
NPOテクノサポート理事長 松本 武



況を打破するために、メーカーの技術者OBらによる「プロボノ活動」が重要だ。

私が代表を務めるNPOテクノサポートは、大手企業を退職した技術者ら約60人(平均年齢67.8歳)が、関東・甲信越を中心に活動している。悩める現役技術者らに知識や技術を提供して、企業の問題解決や経営改善を支援。社会と経済の活性化を目指している。

2004年の設立以来、10年で約400社、140



0件の支援を実施した。食品工場建設の設計、プラスチック製品の製造技術、メッキ技術の開発などから、販路開拓、知的財産管理や職場環境の改善など事例は多岐にわたる。ただ相談に乗るだけではなく現場に足を運ぶことで、実践的な支援を展開している。

OB世代は経済成長時に、プラント建設や新規事業の立ち上げなど、あらゆる技術や事業を一から開発する作業を多く経験し、問題解決力を培った。

だが、最近の若い人は、社会が停滞した時期において、事業や技術の新局面に触れる機会が少ない。こんな状態で問題解決力を養うほうが酷な話だ。そこでOB世代の知恵が役立つはずだ。

14年度、千葉職業能力開発センター(千葉市稲毛区)で、生産管理分野の知識を教える講座をスタートした。

実践をもとに座学と演習を実施している。受講者である現役技術者層に「現場に即した内容で、非常に役に立つ」と好評だ。

最近、われわれのほかにもシニアの技術や経験を生かして、メーカーへ技術支援する団体が増えてきた。非常に喜ばしいことだ。

われわれは先駆者として、今後は行政機関や大学、金融機関とも積極的に連携することで、これまでに以上に広く経営の諸問題を支援できる体制を整え、メーカーがグローバル競争の中で勝ち抜けるための役に立ちたい。

プロボノ活動はシニアにとって、生きがいの向上と自己実現にもつながる。シニアの社会的な孤立を防ぐためにも、活動を続けて、より活性化した社会の実現に歩を進める。

まつもと・たけし 69年(昭44) 阪大院基礎工学研究科課程修了、同年出光興産入社。同年出光石油化学出向。03年同社退職、04年NPOテクノサポート設立、理事長に就任。兵庫県出身、71歳。

OB世代の知見、社会に還元

現場演習と座学で

OB世代は経済成長時